



豊かな緑に包まれた境内



- 大麻町241
- JR普通寺駅から車で約15分

あめのふとだまのみこと ひこほににぎのみこと 天太玉命と彦火瓊々杵命を まつた神社

大麻琴平買田線が琴平町に入ると手前、JR土讃線の線路を渡り西に入ったところに大麻神社があります。今から1900年あまり前の景行天皇の時代、忌部氏が付近を開拓して麻を植え、祖先神の天太玉命をまつたのが始まりだと伝えられています。延喜式にも名を残す古い神社で、戦国時代に兵火で社殿を焼失しましたが、寛文元（1661）年、丸亀藩の京極高和が再建しました。

主神の天太玉命座像と、彦火瓊々杵命座像は、国の重要文化財に指定されています。

天太玉命座像は檜材の一本造りで肩をいからせ怒った表情をしていて、彦火瓊々杵命座像は楠材の一本造りで穏やかな顔をしています。作者は異なると思われるが、ともに平安後期の作です。

また、約7,800㎡の広大な社叢はシリブカガシを主体に蔓性植物やシダ植物が加わったもので、県の自然記念物になっています。本殿の左右には「夕水」・「朝水」という、朝と夕に湧き出たり枯れたりする泉がありました。供物を清めるために使われていましたが、現在は残念ながら枯れてしまいました。